

不必要な「進歩」にブレーキを

# カレーが危ない

## スパイス94品に放射線照射を要請

見聞 宏 (照射食品対策協会)

さとみ ひるし  
食薬衛生学博士



原子力委員会は昨年十月、食品への放射線照射の推進を決めた。その反切りに子どもも大人も大好きなカレーをはじめ、ほとんどの加工食品や家庭での調理に使われるスパイス94品を選んだ。今こそ「照射食品はいらない」の声を挙げたい。

### ジャガイモだけに許可

放射線の当たった食品を食べたいと言ふ人は少ないし、そんな食品があることすら知らない人が多いと思います。

日本の法律では、食べ物に放射線を当てることは禁止されています(例外規定で異物混入の検査と食品の厚み確認に、1ク

レイ以下と、ジャガイモに150クレイの照射が認められている放射線の単位が、ラドからクレイに変更。1クレイは100ラド)。

照射食品の問題は40年前にさかのぼります。66年に内閣府の原子力委員会は「原子炉の多目的利用法の開発」として、米・小麦穀類、ジャガイモ・タマネギ(禁止)、ミカン(防止)、ワイン

ナソーセイジ・水産練り製品(発酵)の7品目に照射するための研究を開始し、72年に厚生省(当時は世界に先駆けて、ジャガイモに照射を許可しました。

これに対して消費者が、自治体も巻き込んで反対運動を起こしました。唯一照射ジャガイモを作っていた北海道の土曜農協は在庫を抱えることになり、日本学校給食会を通して全国の学校給食で食べさせたのです。それを知った父母たちは、照射ジャガイモを退散しましたが、その後も群馬など、地域レベルで学校給食に使われていました。土曜農協は3万トンの照射能力がありますが、生産量は一切公開していませんでした。ところが今年6月、保坂展人議員が出した質問趣意書に初めてその量が公表され、昨年は8000トン照射されていましたが、その行方はわかりません。

こうした新しい技術が許可になると隠れて使う会社も出てきます。74年から4年間、和光堂のベビーフードの材料に、下請け会社が最高3万クレイという強い

放射線を当てていた事件が発覚しました。こうした違反事件はその後も繰り返すことになり、99年から04年までに発覚しただけでも中国、米国、台湾、ブラジルなど6カ国から、朝鮮人参製品、花粉加工食品、粉末オムレツ、アガリクス製剤、焼酎カラシ豆他15件。赤ちゃんの食べものにまで違法照射したので、社会は照射食品に厳しい目を向け、ジャガイモ以外の6品目は許可になりませんでした。しかし、照射食品を推進してきた原子力委員会は、この状況

を苦々しく思っていたのです。

### スパイスに偏執した原子力委員会

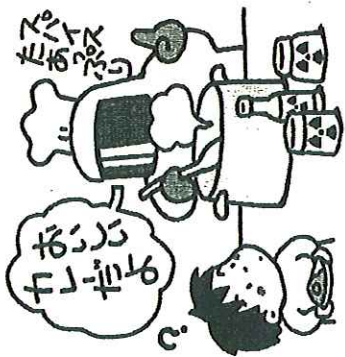
原子力委員会は、原子力発電の他に照射食品も推進する方針を、昨年10月に原子力政策大綱で決めました。それは、原子力の平和利用を強調するためでもあります。しかも照射食品が広がらないのは、消費者の理解不足と決めつけ、消費者の抵抗は根拠のないものとしたのです。ちょうど00年に、94種類の香辛料野菜、ハーブも含むに照射を申し出たスパイス業界を後押しする形で、昨年の暮れから9回の審議を行い、今年7月13日に、推進の報告書を作り上げました。

### 信憑性に問題がある報告書

この原子力委員会のつくった報告書には、いくつかの問題点があります。原子力委員会は、照射食品が安全だと言い根拠をI A B A (国際原子力機関)・F A O (国連食糧農業機関)・W H O (世界保健機関)の照射食品の合同専門委員会が80年に

した「1万クレイまでの照射は安全とする」とした報告書にゆだねました。この専門家委員会とは、各国の照射食品を推進している人たちで構成され、報告書の表紙に「集まった委員の見解をまとめたもので、決定ではない」と断り書きがあり、内容も矛盾に満ちています。というのは、「照射してできる未知の物質や揮発成分の毒性などについても調べる」と二分脊椎という異常を防ぐ薬酸が照射で減るので、主要な食品について調べるように「など多くの課題を記しています。ところが最後のページに、根拠も示さず安全と書いてあるのです。ここに集まった推進派の人たちが、世界が照射食品にきびしい目を向けていることから、焦りのあまり国連機関を利用して作り上げた、非科学的な結論といえます。

和光堂の照射ベビーフードが刑事事件として裁かれたとき、会社側の証人になった専門家が、この報告書を楯に「W H Oも安全としている」と主張したのに対し、検察側証人は安全といえる根拠



カット・富澤美子

